

記入日 2014年1月17日

### 1. 概要

実践団体名	糸魚川市立大和川小学校		
連絡先	025-552-3115		
プランタイトル	大和川小発！ジオパークの海と向き合う地域防災教育		
プランの対象者※1	小学生教職員・保育士等、保護者・PTA、地域住民	対象とする災害種別※2	津波

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

そのも  
い付かせ  
て、世界

進めて  
く。  
)  
)命は自

、地域  
主を見  
きる。  
ランの  
た取組

## 2. プランの年間活動記録 (2013 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	○「防災教育チャレンジプラン」計画作成		○糸魚川世界ジオパークを活用した学習：年間 ○異学年集団(縦割り班)活動：年間 ○学校、家庭、地域との連携：年間
5月	○「防災教育グランドデザイン」作成		○防災教育を意識した運動会
6月		○地域防災会議（市総合防災訓練の打ち合わせ）	○火災対応避難訓練の実施 ○津波に関する学習指導 ○市総合防災訓練に参加
7月			○防災教育に関する研修会
8月	○「防災教育グランドデザイン」見直し		
9月		○「防災教育チャレンジプラン」中間発表資料作成	○国交省主催の防災訓練への参加
10月	○「防災教育チャレンジプラン」計画の見直し		
11月		○「2014 防災教育チャレンジプラン」応募資料作成	○地震による津波を想定した避難訓練 ○縦割り班での炊き出しの訓練 ○津波に関する学習指導 ○名古屋大学 鷲谷教授の講話 ○地震体験車体験 ○縦割り班対抗防災クイズラリー
12月			○防災マップ作成
1月		○「防災教育チャレンジプラン」活動報告会資料作成	○休憩時間中の避難訓練
2月	○「防災教育グランドデザイン」見直し		
3月	○「防災教育チャレンジプラン」計画の見直し		

### 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：  1 】※3

タイトル	防災教育を意識した「運動会」
実施月日（曜日）	5月25日（土）
実施場所	大和川小学校グラウンド
担当者または講師	担当者・講師等の区分：糸魚川市消防署、大和川地域消防団 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	1日
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	8 防災意識を高める
達成目標	児童、保護者、地域住民の三者が一堂に会し、防災意識を高める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○児童、保護者、地域住民によるバケツリレーの実施 ○市消防署員による高所救助訓練の披露 ○大和川地域消防団による消火訓練披露
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	・ 学校：バケツ、水、ペットボトル、的 ・ 市消防署：消防車など ・ 地域消防団：消防車など
参加人数	約500人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ○児童、保護者、地域住民の三者が一堂に会し、防災意識を高めることができた。 ○市消防署や地域消防団の防災への取組を知ることができた。 ○後日、地域内で、小火が起こった。その際、近所の人たちが協力して、バケツリレーなどの消火活動を行った。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  2 】※3

タイトル	糸魚川市総合防災訓練（津波対応）に参加
実施月日（曜日）	6月23日（日）
実施場所	大和川地域の四箇所
担当者または講師	担当者・講師等の区分：糸魚川市役所、糸魚川市消防署 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	半日
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事、1 6 避難・防災訓練
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	自宅や町内滞在時に、安全に高台に避難することができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○市内一斉に、サイレン警報、緊急放送 ○第1避難場所（近くの公園など）へ避難する。 ○第2避難場所（高台）へ避難する。 ○市職員、市消防署職員、地域代表者の話
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・調査（参加児童を事前に確認） ・地区ごとの児童名簿（安否確認用） ・事後アンケート用紙 ・アンケート結果集約
参加人数	1 地区あたり約500人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ○自宅や町内滞在時の、避難場所や避難経路が分かった。 ○家族や地域住民と一緒に協力して避難することができた。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  3 】※3

タイトル	防災教育に関する研修会
実施月日（曜日）	7月25日（木）
実施場所	大和川公民館
担当者または講師	氏 名：藤岡達也 所属・役職等：上越教育大学大学院 教授 及び 担当者・講師等の区分：糸魚川消防署員2名
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	3講演会・シンポジウム
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める， 8 防災意識を高める
達成目標	○学校における防災教育の進め方について考える。 ○糸魚川市における防災対策、津波発生時の避難の仕方を知る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○上越教育大学大学院 藤岡達也教授の講話 ○糸魚川市消防署員の講話
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・配付資料 ・パソコン、プロジェクター、スクリーン ・長机、椅子
参加人数	約30名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ○教職員や地域住民が、「学校における防災教育の進め方」について考えることができた。 ○教職員や地域住民が、「糸魚川市における防災対策や、津波発生時の避難の仕方」を知ることができた。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  4 】※3

タイトル	国土交通省主催の合同防災訓練に参加
実施月日（曜日）	9月24日（火）
実施場所	国道8号線 糸魚川東バイパス田伏駐車帯
担当者または講師	担当者・講師等の区分：国土交通省 高田河川国道事務所 陸上自衛隊 高田駐屯地 糸魚川市役所、糸魚川市消防署
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事、1 6 避難・防災訓練
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	○田伏地区で災害に遭遇した場合の避難場所や避難経路を知る。 ○各種訓練の見学を通して、防災に対する意識を高める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○第1避難場所のグラウンドに避難する。 ○田伏地区の避難場所に避難する。 ○田伏地区避難場所にて見学をする。 ・がれき撤去訓練（自衛隊、国土交通省） ・被災自動車からの救出訓練（糸魚川市消防署） ・応急組立橋設置訓練（自衛隊）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・帽子、水筒
参加人数	約500人（大和川小学校の児童、いくみ保育園の園児、田伏地区の住民）
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ○児童は、田伏地区で災害に遭遇した場合の避難場所や避難経路を知ることができた。 ○各種訓練の見学を通して、児童は、防災に対する意識（特に、公助について）を高めることができた。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  5 】※3

タイトル	地震による津波を想定した避難訓練
実施月日（曜日）	11月6日（水）
実施場所	大和川小学校グラウンド 桜ヶ丘公園忠霊塔（高台）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：学校職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事、16 避難・防災訓練
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	○地震による津波発生時の避難方法を理解し、安全に避難することができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○地震発生（放送をしっかりと聞く） ○第1避難（机の下に入る） ○第2避難（グラウンドに集合） ○第3避難（桜ヶ丘公園忠霊塔へ移動） ○校長の講話 ○学校へ戻る
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・学級旗 ・児童名簿
参加人数	児童198人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ○児童は、地震による津波発生時の避難方法を理解し、安全に避難することができた。 ○児童は、ペア学年の児童同士で協力し合い、安全に避難することができた。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  6 】※3

タイトル	炊き出し体験活動
実施月日（曜日）	11月6日（水）
実施場所	大和川小学校グラウンド
担当者または講師	担当者・講師等の区分：学校職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	3時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事、13 体験学習、16 避難・防災訓練
活動目的※5	7 技術を身につける
達成目標	○炊出し活動を行い、防災についての意識を高める。 ○縦割り班での協力を通して、仲間を思いやる心を育てる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○縦割り班ごとに、グラウンドに集合 ○かまどの火起こし、薪を運ぶ ○鍋の水を準備する。 ○調理材料を運ぶ。 ○ご飯を炊く。 ○豚汁を作る。 ○火の管理をする。 ○会食をする。 ○後片付け
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・かまど24、薪、うちわ12、トング12、チャッカマン、鍋24、さいばし12、おたま12、金ざる12、クレンザー、スポンジ、タワシ、 ・簡易炊飯袋230枚 ・米、肉、豆腐、みそ…230人分 ・玉ねぎ、人参、じゃがいも…各自家から持ってくる ・お椀2つ、箸、ふきん、敷物、水筒、軍手 ・焚き付け用牛乳パック
参加人数	児童198人
経費の総額・内訳概要	33761円
成果と課題	【成果】 ○炊出し活動を行った結果、児童の防災意識が高まった。 ○縦割り班での活動中に、児童の「仲間を思いやる行動」が随所にみられた。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



## 【実践プログラム番号： 7 】※3

タイトル	縦割り班対抗 防災クイズラリー
実施月日（曜日）	11月22日（金）
実施場所	大和川小学校 体育館及び各教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：学校職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1イベント・行事
活動目的※5	1遊び・楽しみながらの防災
達成目標	○縦割り班で協力しながらクイズラリーをすることを通して、防災についての意識を高める。 ○友達を思いやる心を育てる。 ○高学年児童のリーダーの育成を図る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○開会式 ○クイズラリー ・防災に関するクイズ1～6年生問題、計6問を解く。 ・人間知恵の輪、風船バレーをする。できたら得点。 ○閉会式
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・防災クイズ6問 ・解答用紙 ・フラフープ、風船 ・手作りの賞品（防災バッジ、防災カード）
参加人数	児童198人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ○児童の防災の意識が高まった。 ○仲間を思いやる姿が随所に見られた。 ○高学年児童がリーダーシップを発揮する場面が多々見られた。 ○6問のクイズを各教室で担任が再度、説明・指導した。児童の防災知識が深まった。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

#### 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>○校内組織の「企画委員会」の場で、防災教育やチャレンジプランの実践に関わる検討事項を話し合うことができた。</p> <p>○「児童の心の育成活動」に関わっては、「防災教育の活動」と「児童会 縦割り班活動」をリンクさせて、活動を構成した。</p> <p>△「防災教育に関する学習・行事を行う時数」を、どう生み出していくか、(年間学習指導計画に位置付けるか) が今後の課題である。</p> <p>△「防災教育に関する実践例」が、まだまだ少ないので、前例に当たることができない。よって、実践の計画や準備に大変時間が割かれる。</p>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>△「防災教育を行うための経費」をどこから捻出していくか、が今後の課題である。</p> <p>△一部の職員に準備の負担が集中してしまった。校内の組織体制の見直しが必要である。</p> <p>△他団体と協力・連携して活動を展開する際、防災教育に関しての各々の立場や考え方が違うので、準備日程や当日日程を調整すること(すり合わせる)が大変であった。</p>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>△「校内の他の行事との調整」「他の関係団体との調整」などが、上手く行かず、防災教育の学習・行事が6月と11月に偏ってしまった。今後、学習や行事に偏りが出ないように、防災教育の活動を精選・調整していく必要がある。</p>

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上越教育大学（藤岡教授）</li> <li>○名古屋大学（鷺谷教授）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員と地域住民に対しての「防災教育研修会」の開催</li> <li>○世界ジオパーク学習における現地講師</li> <li>○防災教育（津波対応）に関する講話</li> </ul>
保護者・ PTAの組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大和川小学校 PTA</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「防災教育の要素を取り入れた運動会」の実施</li> </ul>
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大和川地域役員会</li> <li>○大和川地域消防団</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域防災会議」の実施</li> <li>○「消火訓練」披露</li> </ul>
国・地方公共団体・ 公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>○糸魚川市消防署</li> <li>○糸魚川市役所</li> <li>○国土交通省、自衛隊、北陸地方整備局</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「高所救助訓練」披露</li> <li>○「地震体験車体験」の講師</li> <li>○「火災対応避難訓練」「煙体験」の講師</li> <li>○「市総合防災訓練」に参加</li> <li>○「合同防災訓練」に参加</li> </ul>
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年（学級担任）が創意工夫し、年間を通して、「世界ジオパークを学ぶ学習」を展開した。地域に愛着をもてる児童が育ちつつある。</li> <li>・防災教育における様々な実践を行ってきたことで、「安全に避難するための知識、感覚、判断力、行動力」が児童に、徐々に身に付いてきた。</li> <li>・共生（人と人のかかわり）を大切にして、防災教育を進めてきた。その結果、児童は、仲間同士で協力し合い、助け合えるようになってきた。</li> <li>・「防災教育を、地域とともに考える機会」をたくさん設けてきた。地域とともに防災教育を進められるような連携体制ができてきた。</li> </ul>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<p>○今後、防災教育を進めていく上で、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界ジオパークを学び、かかわり、愛着をもてる児童の育成をさらに進めていく必要がある。</li> <li>・安全に避難するための知識、感覚、判断力、行動力を身に付ける児童の育成をさらに進めていく必要がある。</li> <li>・仲間同士や地域住民と協力し、助け合える児童の育成をさらに進めていく必要がある。</li> <li>・地域との連携組織をさらに固めていく必要がある。</li> </ul>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<p>○2013年度、当校は、防災教育チャレンジプランに参加した。防災教育に対して、教職員、児童、PTA、地域住民が本気になって考え、協力連携してきたことで、様々な成果を得ることができた。しかし、学習内容の再構築、組織の確立など課題が残っている。もう1年継続することで、これらの課題を克服し、さらなる成果を上げることができると考える。そして、防災教育チャレンジプランに対して「世界ジオパークにおける防災教育」という「新しい提案」をすることができると考える。</p>

## 7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。



世界ジオパークを生かした総合的な学習



異学年集団(縦割り班)活動「ありがとうカード交換」



津波に関する学習



地域防災会議「市防災訓練打ち合わせ」



防災教育を意識した運動会「児童、PTA、地域によるバケツリレー」「地域消防団による消火訓練」



(自由記述: 1/3)



糸魚川市総合防災訓練(全市一斉津波避難訓練)



国土交通省、自衛隊、糸魚川市、合同防災訓練





防災教育に関する校内研修

地震による津波を想定した避難訓練

(自由記述: 2/3)



縦割り班での炊き出し訓練



「地震体験車」を体験



名古屋大学 鷺谷教授の講話



縦割り班対抗防災クイズラリー



(自由記述: 3/3)